



SAFEプログラムで

子どもたちに考える力を!!

本市では、平成18年度から小学校・特別支援学校にSAFEプログラム（Survival And Fairness through Empowerment エンパワメントを通じて生きる力を育み公正を実現するプログラム）を導入し、その活用の推進を図っています。

今号では、このSAFEプログラムについて紹介するとともに、各学校での積極的な取組をお願いします。



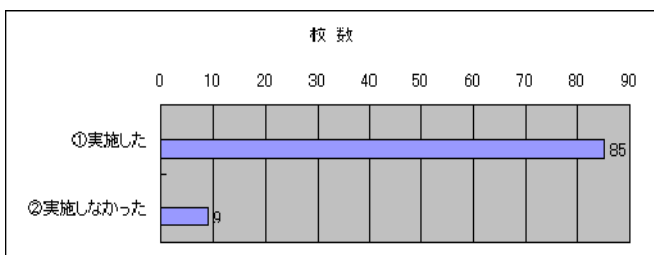
SAFEプログラムとは

子どもの安全を大人が守るだけでなく、子ども自身が自らを守るためのスキルを身に付けることを目的とするプログラムです。

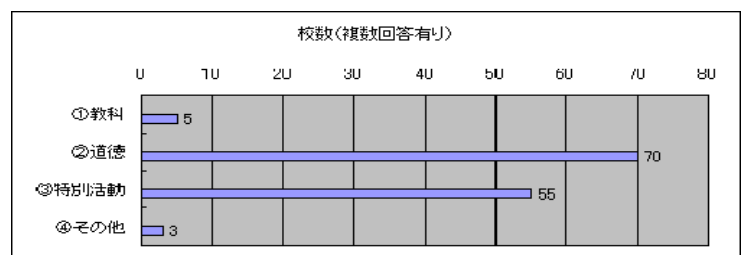
教室で教員がすぐ使えるイラストボード型の教材を用いて、子どもと教員が対話型で学習を進めることで、子ども自身が潜在的な危険を察知し、その状況の中で何ができるかを考える力を伸ばすことをめざします。

実施状況（平成20年3月24日現在）

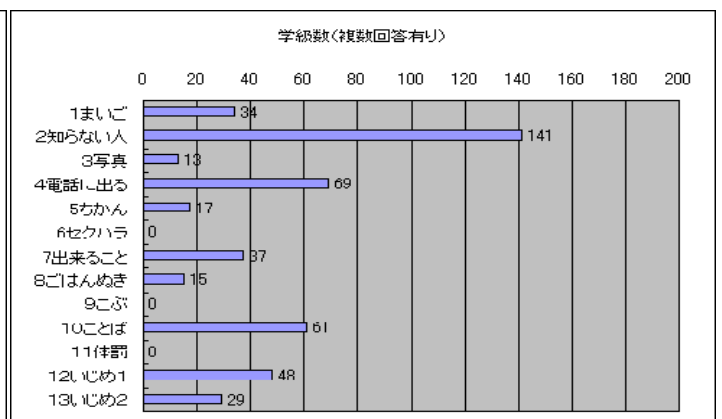
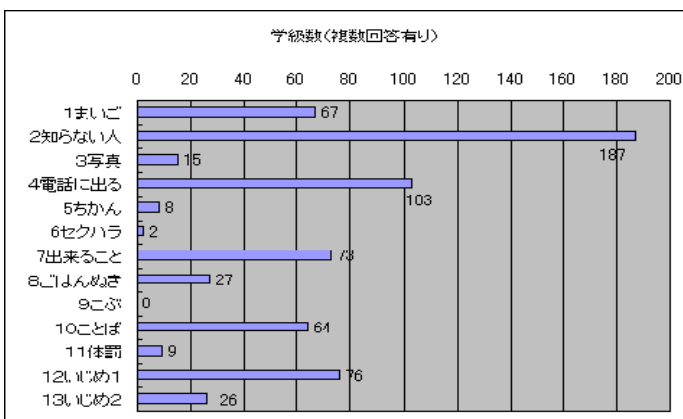
○実施状況



○実施した教科等



○実施した内容（左 1年生 右 2年生）



SAFEプログラムを実施した感想

- SAFEプログラムで視覚に訴えて考えた後、実際にロールプレイを行い、いじめについて考える機会をもった。子どもは、積極的に自分たちの考えを発表し、話し合った。劇化したので、いじめる方、いじめられる方の気持ちがよくわかり、効果的なプログラムだった。
- 大人が考えるとあたり前のことが、子どもたちの中では捉えがバラバラであり、絵の事例をあげて話し合うことにより、子どもたちにスキルを育てることができた。
- 問題が発生した時や長期休業前に活用できてよかった。日常生活での出来事と関連付けて指導することで、子どもたちに注意喚起することができた。
- 様々な教育活動の中で、プログラムの内容を適宜活用して指導した。学年または学級で生徒指導上の問題が起きた際にも、プログラムの内容が指導にとっても役立った。
- 各学級で問題が起きた際には、SAFEプログラムを活用して繰り返し指導することで、より深く子どもたちに理解させることができた。
- 絵を一枚用いることで子どもが集中でき、効果的な指導につながった。中・高学年向けのものがあるとよい。

堺の中学生 頑張っています!!

中国四川省大震災の被災者 救援募金活動を実施!

< 堺市立三原台中学校 >

5月19日、20日の2日間、堺市立三原台中学校生徒会と在籍中国帰国生徒が中心となって、中国四川省大震災の被災者救援のため、募金活動が行われ、募金総額42,319円が集められました。

このことについて、5月27日(火)午後3時30分から、朝日新聞社の記者が来校し、生徒会代表生徒、帰国生代表生徒が、募金を始めたきっかけや募金の感想等について取材を受けました。【5月29日 朝日新聞掲載】



※ 堺市立日置荘中学校生徒会及び堺市立東百舌鳥中学校生徒会においても、中国四川省及びミャンマー被災者救援のための募金活動を実施しました。

消火活動に貢献!

< 堺市立若松台中学校 >

5月10日(土)午前11時21分、部活動を終了して下校途中の堺市立若松台中学校女子バスケットボール部の部員8名が、堺市南区若松台2丁3番付近の集合住宅で火災が発生しているのを発見しました。同部員たちは、すぐに119番通報し、発生場所や火災の状況を的確に伝えた後、全員が協力して付近の住民に火災を知らせ、非難するよう促しました。

この対応により、5月19日(月)、南消防署長室にて、バスケットボール部の部員8名が南消防署長から表彰されました。また、このことについて、「広報・さかい」南区版、「泉北コミュニティ」による取材が行われ、それぞれに掲載される予定です。

